

2025_1202 「大学構内のトウカエデ並木」日々の理科 4132号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「モミジ」と「カエデ」は明確な見分け方や、分類上の差異はありません。どちらも「ムクロジ科／カエデ属」に分類されます。一般的には「葉の周縁にギザギザが多い（鋸歯）」が「モミジ」、「周縁がなめらか（全縁）」が「カエデ」とされます。また、日本では紅葉（こうよう）が真っ赤に美しいものを「モミジ」と呼ぶ習慣があるようです。小葉（別れた突起の数）で呼び分けるというのは誤りです。その「カエデ」の代表種の一つに「トウカエデ」があります。

トウカエデ（唐楓）はなお通り中国原産のカエデで、葉の突起が3枚というのが特徴です。恐竜のあし跡のように見えるので、小学生は「恐竜の木」と呼んでいました。日本の気候にもよく合っていて、街路樹や公園にもよく植えられているので、都会でもよく見かける樹木でしょう。

そのトウカエデの並木が大学構内にあります。大学構内の景色でも、私が一番好きな場所です。トウカエデも本来真っ赤に紅葉するのですが、東京のような暖地では、黄色～橙で落葉してしまうことが多く、赤い落ち葉は「珍種」になります。風が吹くと一斉に葉が落ちて、殊更に美しい光景になります。

（2025年11月下旬／お茶の水女子大学構内）

